

活動名	秋葉原ウォーカブルプロジェクト 「アキバ・スナップウォーク」・「座り場調査」
-----	---

貢献・連携類型	1. 地域連携・協力
---------	------------

報告者	建築学科	学科	職位	准教授	氏名	泉山 壘威
-----	------	----	----	-----	----	-------

概要（実施したこと、進捗状況等）について記述してください。

2025年度の秋葉原ウォーカブルプロジェクトでは、秋葉原の多様な文化や回遊性といった地域特性を活かしながら、歩行者中心で快適かつ滞留しやすい都市空間の形成を目指す「秋葉原ウォーカブルビジョン」を前提として、その方向性を踏まえた取り組みを実施した。

このビジョンの方向性の検証および地域関係者の理解促進を目的として、秋葉原タウンマネジメント株式会社と協力し、写真を用いたフォトスタディ手法である「アキバスナップウォーク」を実施した。また、滞留空間の現状及び利用実態を把握するため、「座り場調査」を実施した。

具体的には、地域事業者や秋葉原やウォーカブルに関心のある参加者、学生などが実際にまちを歩きながら、「アキバらしい」「ウォーカブルらしい」と感じる写真を撮影し、その評価理由を整理したうえで、「アキバらしさ」や「ウォーカブルらしさ」を共有した。そのうえで、滞留を促す要因や阻害要因などの空間特性を整理し、課題の解決やアキバらしさを活かしたウォーカブルなまちへの転換に向けたアクションについて議論した。

今後の展望、本活動で得られた成果を記述してください。

本活動の成果は、まちあるきおよび写真撮影を通じて、参加者の「ウォーカブル」への理解が促進されるとともに、これまで十分に捉えきれていなかった歩行者視点での「アキバらしさ」および「ウォーカブルらしさ」を言語化できた点にある。

さらに、座り場調査では、滞留空間の現状及び利用実態を把握するとともに、秋葉原における特徴的な滞留行動の傾向を整理し、アキバらしい滞留空間のあり方に関する提言を行った。

今後は、秋葉原タウンマネジメント株式会社と連携し、アキバらしいウォーカブルの確立に向けた取り組みを推進していく。

対象・相手先	秋葉原タウンマネジメント株式会社
--------	------------------

協定書・依頼の有無（具体的に記入）	「秋葉原ウォーカブルエリアにおけるウォーカブルなまちづくりに関する協定書」
-------------------	---------------------------------------

実施日時	アキバスナップウォーク：令和7年10月24日（金） 座り場調査：令和7年10月12日・18日・11月13日
------	--

場所	秋葉原TMOビル1階（LIFORK秋葉原IIラウンジ）・秋葉原駅周辺地区・日本大学都市計画研究室（泉山ゼミ）
----	--



座り場調査の様子（泉山ゼミ撮影）

本学からの参加者
建築学科：
泉山壘威准教授、都市計画研究室（泉山ゼミ）の学生・大学院生約20名



日大
理工